

2021年度

問・解

文学部日本文学科 2・3年次（転籍・転部・転科・編入）試験用紙

試験科目（論文）

受験番号	番
ふりがな	
氏名	

採点欄

【一】 以下の各問いに答えなさい。

【採点欄】

問1 日本文学科に入学したら、何をどのように研究したいと考えているか、時代・ジャンル・作品・著者・事象・理論・学説などを挙げながら、具体的に述べなさい。

【採点欄】

問2 右の問1で述べたことを実現するために、自分なりにどこまで調査や思索を深めて来たか、書籍名・論文名・講義名などを挙げながら、具体的に述べなさい。

【採点欄】

問3 高等学校における「国語」と、大学における文学研究・言語研究とは、どこがどのように違っているか、考えるところを述べなさい。

2021年度

問・解

文学部日本文学科 2・3年次（転籍・転部・転科・編入）試験用紙

試験科目（論文）

氏名	ふりがな	受験番号
		番

〔二〕 以下の作品・作家・事項について、文学事典や日本語学事典の一項目を執筆するつもりで、必要十分な解説文を書きなさい。

問1 『古事記』

【採点欄】

問2 谷崎潤一郎

【採点欄】

問3 尊敬語と謙譲語

【採点欄】

試験科目（論文）

氏名	受験番号	番

〔三〕 次の文章は『枕草子』の一節で、著者（清少納言）が里住みをしてきた折の出来事が記されている。著者は、女房として中宮に仕えていたが、敵対する勢力と通じているとの噂を立てられ、宮中から退出したのであった。これを読んで、後の問いに答えなさい。

例ならず仰せ言おほごとなどもなくて、日ごろになれば、心細くてうちながむるほどに、長女をさめ、文ふみを持て来たり。「御前おまへより宰相の君して、しのびて給はせたりつる」と言ひて、ここにてさへひきしのぶるもあまりなり。人づての仰せ書おほがきにはあらぬなめりと、胸むねつぶれてとくあけたれば、紙にはものも書かせたまはず、山吹やまぶきの花びらただ一重ひとへを包ませたまへり。それに、「言ことはで思ふぞ」と書かせたまへる、いみじう、日ごろの絶え間嘆なげかれつる、みななぐさめてうれしきに、長女をさめもうちまもりて、「御前おまへにはいかが、物のをりごとにおぼし出いできこえさせたまふなるものを。誰たれもあやしき御長居ながみとこそはべるめれ。などかはまゐらせたまはぬ」と言ひて、「このなる所に、あからさまにまかりてまゐらむ」と言ひて、いぬる後のち、御返事書かへりごときてまゐらせむとするに、この歌の本もとさらに忘れたり。「いとあやし。同じ古ふるごとといひながら、知らぬ人やはある。ただここもとにおぼえながら言ひ出いでられねば、いかにぞや」など言ふを聞きて、前まへにゐたるが、「『下したゆく水』とこそ申せ」と言ひたる。などかく忘れつるならむ。これに教へらるるも、をかし。

（『枕草子』「殿などのおはしまさで後」の段より）

注 *仰せ言などもなくて …… 中宮定子からのお便りなどもなくて。

*長女 …… 宮中で雑用をする女性。

*御前 …… 著者（清少納言）が仕えていた中宮定子のこと。

*山吹の花びら …… 『古今和歌集』に載る和歌「山吹やまぶきの花はな色いろ衣ころも 主ぬしや誰たれ 問とへど答こたへず
くちなしにして」を踏まえた趣向。

*言はで思ふぞ …… 『古今和歌六帖』に載る和歌「心こころには 下したゆく水みづの わきかへり
言はで思ふぞ 言いふにまされる」の第四句。

*前にゐたる …… 前にいた童。著者に仕えている女子。

2021年度

問・解

文学部日本文学科 2・3年次（転籍・転部・転科・編入）試験用紙

試験科目（論文）

氏名	ふりがな	受験番号
		番

問1 傍線部A「胸つぶれてとくあけたれば」を現代語訳しなさい。

【採点欄】

問2 傍線部B「などかはまゐらせたまはぬ」を現代語訳しなさい。

【採点欄】

問3 傍線部C「ただここのとおぼえながら言ひ出でられねば」を現代語訳しなさい。

【採点欄】

問4 「御前」^{おまへ}（中宮定子）からの「文」^{ふみ}は何を伝えようとするものだったか、注に挙げられている『古今和歌集』の和歌・『古今和歌六帖』の和歌を考慮に入れて、説明しなさい。

【採点欄】

以上